

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立不破高等学校

学校番号 29

I 自己評価

1 学校教育目標	歴史と伝統を誇る学校として、校訓「あかるく、さとく、たくましく」を旨として、「知・徳・体」の調和のとれた人格の形成を図るとともに、生徒一人一人の個性的で、多様な進路の実現を図る。	
2 評価する領域・分野	◇学校経営	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒によるアンケートでは、満足度が70%を上回った項目が32項目、そのうち80%を上回ったのが28項目あり、高い満足度を得ている。 ・一方で『家庭との連携』や『学校行事』の部活動や生徒会の活性化については、例年どおり不満足度が30%近くあり、継続した課題となっている。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒の実態や時代の変化に即した活力ある学校経営の推進に努める。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・不破高等学校活性化協議会、学校運営協議会を中心に、外部の有識者等の意見を積極的に取り入れ、活性化を推進する。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
① 「少人数コミュニケーション講座」の導入による学校設定科目「自己探求」の円滑な実施。	①学習内容の円滑な実施、指導計画の修正	
②アクティブラーニングの視点を踏まえた学習活動の積極的な導入に向けた「活性化プログラム研修」の実施。	②授業における実践、生徒による授業評価	
③積極的な広報活動の推進	③マスコミへの積極的な情報提供、HPの充実、メール配信システムの活用等	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①指導計画を修正しながら、円滑に学習内容を実施することができた。	①対象生徒に適した指導内容を実施することができたか。	A B C D
②職員研修会や異校種交流等を通して、教科指導力を高めた。	②授業で実践するなど有効に活用できたか。	A B C D
③マスコミへの積極的な情報提供やHPの充実、メール配信システム登録の徹底を図った。	③学校の教育活動を積極的に発信できたか。	A B C D
11 成果 ・ ○合理的配慮協力員の指導の下、指導計画に修正を加えながら、受講生徒一人一人に合わせた指導ができた。 ・ ○講師を招いての全体研修会やグループ別での研修会を実施することにより、アクティブラーニングの視点を踏まえた学習活動に対する意識付けと積極的な実践の試みに結び付けることができた。 課題 ▲本校の現状や取組状況を、より効果的に周知していく必要がある。	総合評価 A B C D	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・学校設定教科「自己探求」では、2年次生、3年次生と同時進行となるが、対象生徒の取組状況に合わせて指導計画を修正し、構築していく。 ・各教科において、アクティブラーニングの視点を踏まえた学習活動を積極的に実践する。 ・積極的な広報活動を継続するとともに、垂井町のみならず他地域との継続的な連携を検討する。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月7日

【意見・要望・評価等】

- ・今後、人口減少が進む中、中長期的展望で考えた場合、本校の確かなアイデンティティが必要になってくるのではないかと。現在の規模での学校の特徴付け、なくてはならないもの、必要となるものは何かを考え、強調していかなければならない。

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立不破高等学校

学校番号 29

I 自己評価

2 評価する領域・分野	◇学習指導		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「よくあてはまる」「ややあてはまる」という評価の合計は、生徒の1項目を除いて80%以上であり、全観点でH29を上回った。 ・生徒は、「学校はテストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている」の項目では、満足度が90%と高く評価している。 ・「総合的な学習の時間の内容は自分にとって有意義である」という項目も75%あり、H29の66%を上回った。 ・保護者は、「学校は、できるだけ選択授業や少人数授業を行い、生徒の理解を高めようと努力している」という項目では、96%ととても高く評価している。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇基礎・基本の定着と主体的な学習態度の育成		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・学校活性化プログラムによる授業研究		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
①基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため、義務教育段階までの「学び直し」を実施する。	①学習において、生徒一人一人のつまづきを把握し、学習意欲を喚起させ、考査の平均点の向上を実現する。		
②アクティブラーニング導入による主体的な学習態度の育成とする。	②活性化プログラムの主題をアクティブラーニングとし、授業改革による生徒の主体性の向上を図る。また、年間3回の公開授業期間を実施し、教員相互の意見交換を行い、授業改善の一助とする。		
③加点方式を導入するなど、適切な評価の工夫に取り組む。	③評価の可視化の工夫、加点評価等を実施する。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
①新入生の春の課題考査に基礎学力診断テストを実施して、生徒の基礎学力を外部指標で明確にして授業に活かした。また1年時の4月から国数英の3教科で学び直しに取り組み、基礎学力の充実を図った。	①学習実態を把握し、生徒の指導に活用できたか。	Ⓐ B C D	
②他教科の教員で4つの班を編成し、各班で前後期に1人ずつ研究授業を実施して授業研究を行った。また、学期ごとに授業公開旬間を設け、教員相互の意見交換を行い、授業改善の一助とした。	②授業評価の結果を授業改善に活かすことができたか。	A Ⓑ C D	
③毎時間のノート点検やプリント学習、提出課題などにおいて、検印など生徒に見える形で取組みに対する評価を、それに応じて加点して、授業へ取り組む意欲の喚起に努めた。	③教員が授業研究に取り組み、可視化した評価をしたか。	Ⓐ B C D	
11 成果・課題	<p>○ここ数年は年度初めに新入生に対して基礎学力テストを実施してきたが、休暇課題の意味合いで終わる感があり、来年度からは新2年生にも年2回継続して基礎学力テストを行い、生徒の学力推移を把握していきたい。</p> <p>○類型別による履修登録を指導することで生徒の進路希望と履修科目の整合を図ってきたが、安易な選択に偏らないことや後期の履修変更を視野に入れた柔軟性のある履修登録の支援を工夫したい。</p> <p>▲生徒の授業に対する学習意欲を向上させるため、ICT機器とアクティブラーニングをからめて、生徒が主体的に活動できる授業展開の研究を進めたい。</p>		
12 来年度に向けての改善方策案	<p>・来年度から進められる普通教室のICT化と、生徒の主体的な授業参加の工夫における授業方法の研究や授業実践に取り組んでいく。</p> <p>・安易な遅刻や欠席を減らす改善策や生徒の意識改革に向けた取り組みを他分掌と連携して行う。</p>		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月7日

【意見・要望・評価等】

・少人数教育や基礎学力定着のための授業実践や研究をさらにその工夫や深化を進め、生徒一人一人が充実感や達成感を味わうことのできる学習活動を展開してほしい。

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立不破高等学校

学校番号 29

2 評価する領域・分野	◇生徒指導・教育相談・特別活動・保健厚生	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p><本校外部評価票の集計・分析結果（生徒・保護者）より></p> <p>○基本的なモラルやマナーの指導に関しては、生徒・保護者ともに満足度が87%に達し、昨年度より増加した。</p> <p>○社会のルールにふさわしい服装、頭髪等の指導に関しては、生徒の満足度が88%、保護者は87%であった。</p> <p>○いじめや差別の防止指導に関しては、生徒の満足度が微増し88%、保護者は微減し78%であった。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇学級担任・学年会・分掌との連携を密にした生徒指導を行う。</p> <p>◇地域社会の一員としての自覚を深め、主体的に判断し自らの行動に責任を持つとともに、自己指導能力を高める態度を育成する。</p> <p>◇自他の生命と人格を尊重し、道徳的実践力を育成する。</p> <p>◇積極的に共感的な生徒理解に努め、予防的・開発的教育相談を推進。</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	生徒指導委員会(いじめ防止対策委員会)・生徒指導部会・各学年会・人権教育推進委員会・特別支援推進委員会・いじめ防止等対策検討会議	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
①家庭との連携を密にして、全職員の共通理解・行動連携のもと、自己指導能力の育成に努める。	①身だしなみ／遅刻者・欠席者数の比較／授業規律とユニバーサルデザイン／登下校指導によるマナー向上／情報モラルの向上	
②共感的な生徒理解に努め、いじめ、不登校、問題行動等の未然防止・早期発見・迅速な対応に努める。	②迷惑調査の結果と対応／相談室・保健室利用状況／全校一斉人権啓発行動の取組状況	
③自己肯定感を高め、地域社会の一員としての自覚を深め、責任と節度ある態度の育成に努める。	③部活動の一層の活性化／MSリーダーズ活動の取組状況／ボランティア活動の取組状況	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①遅刻者数が、平成22年度をピークに減少傾向にあり、昨年度1345人に対し、今年度は2月末現在で1267人である。交通事故発生件数は、昨年度11件、今年度は11件である。	①遅刻者数・交通事故件数が減少したか。	A (B) C D
②「不破高の生徒指導」と「学校いじめ防止基本方針」を改訂し職員間の共通理解と行動連携を図った。迷惑調査の結果を受けて、全体指導と個別指導の両面で、迅速に対応した。少人数コミュニケーション講座の開設に伴い、要特別支援生徒に対し柔軟に対応した。	②生徒の把握に努めるとともに、多様な生徒に対応したか。人権意識を高められたか。	(A) B C D
③携帯電話・スマホ新使用ルールの運用を開始し、情報モラル教育の推進を図った。総勢123名のMSリーダーズが交通安全運動への協力などを行なった。	③生徒が主体的に活動したか。	A (B) C D
11 成果・課題	<p>○大部分の生徒が携帯電話・スマホの新ルールを遵守した</p> <p>○あったかい言葉掛け運動やピンクシャツデーにより、人権意識を高めた。</p> <p>▲遅刻者数が減少傾向に再度転じたが、欠席者数が増加傾向にある。</p> <p>○部活動に参加している生徒が増加したが、一層の活性化が求められる。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<p>・生徒心得（校則）の見直しを生徒・保護者・教員の三者で行い、生徒の主体性を育む。</p> <p>・中間層の生徒の規範意識、人権意識をもっと高め、「いじめ」が起きにくい環境を作る。</p> <p>・遅刻防止の回数指導の方法を改めるとともに全校生徒の意識向上のため「見える化」を図る。</p> <p>・特別支援教育（個別の教育支援計画、ユニバーサルデザイン）および少人数コミュニケーション講座についてさらなる整備と体制の充実を図る。</p>	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月7日

【意見・要望・評価等】

・規範意識を高めるため、様々な取組が行われている。今後とも生徒との信頼関係に軸足を置いた指導を継続してほしい。

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立不破高等学校

学校番号 29

I 自己評価

2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 適した進路情報提供による生徒の可能性の伸長や、希望に応じた進路指導について80%の生徒が肯定的である。 保護者の進路情報の提供についての満足度は90%と高い。 	
4 今年度の具体的なかつ明確な重点目標	◇社会的・職業的自立に向けて必要な能力の育成と、進路目標の実現に向けた支援に努める。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 教務部長、生徒指導部長、進路指導部長、各学年主任を中心に、外部リソースとの連携も図りながら、具体的な取組の企画、立案、検証を行う。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> ①総合的な学習の時間（不破スピリットタイム＝FST）を柱としたキャリア教育を推進し、学習意欲の喚起や将来の職業選択に向けた心構えの育成に努める。 ②就職希望者への積極的な支援に努める。 ③希望者の適性に応じた進学志望校の支援に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①FSTプログラムの充実、インターンシップの推進、外部リソースとの連携 ②キャリア教育アドバイザーの活用、ハローワークとの連携、面接・履歴書・小論文指導・就職試験対策を通して内定率95.9% ③個人懇談の充実、内定及び合格後の個別の学習支援 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ①FSTは年間計画に基づき、組織的・系統的に実施した。夏季休業中の応募前職場見学やインターンシップも定着した。 ②キャリア教育アドバイザーを中心とした企業訪問を通して長年の信頼関係を構築してきた。2社目以降の受験についてハローワーク大垣との連携を密にした。SPI2対策、岐阜経済大学と連携した面接指導等を実施した。3/20現在の内定率95.9% ③オープンキャンパスへの積極的な参加や進路ガイダンスをより一層に充実させた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①職員の共通理解のもと、生徒のキャリア意識の向上を図ることができたか。 ②有効な支援策を実施し、内定率の向上を図ることができたか。 ③生徒や保護者の考えを把握して、個々の適性に合った進学先の斡旋及び進学実績の向上を図ることができたか。 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○外部リソースと連携した多様な進路行事の実施、進路実現に向けた取組等を行い、一定の成果を上げることができた。 ○きめ細かい指導の結果、第一次就職試験の内定率が90.2%であったが、その後粘り強く取り組んだが、95.9%まで向上した。 ▲懇談や進路ガイダンスの実施により希望の進学先に合格できたが、それが個々の進学学習によるものでは必ずしもなく、また進学後の学習を充実させるための基礎学力が備わっているかについては不安を隠せない。 	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・FSTプログラムの見直しを行う。 ・企業との信頼関係構築に向け、現状確認・求人開拓のための企業訪問を引き続き積極的に行う。 ・早期の個別懇談を実施して生徒自らの志望校研究を充実させることで、進路先とのミスマッチをなくしていく。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月7日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在学中に多くの資格を取得させる指導は素晴らしい。将来の進路選択の視野が広がるよいきっかけになる。
--